

資 料

スポーツ情報戦略活動の教育プログラム化に関する研究  
～ 宮城県高校総体における利府高校を演習の場として展開された  
「スポーツ情報戦略論演習Ⅱ」の試みについて～

阿部 篤志、石丸 出穂、藤本 晋也、粟木 一博、太田 四郎、勝田 隆

A study of educational program through sport intelligence activities

— The challenge of building new scheme on a seminar “Technical Method of Sports Intelligence Activities Ⅱ” —

ABE Atsushi, ISHIMARU Izuhō, FUJIMOTO Shinya, AWAKI Kazuhiro, OTA Shiro,  
KATSUTA Takashi

---

Educational programs through sport intelligence activities have been developed since Sendai University established a department of Sport Intelligence and Mass media in 2007. This issue is featuring a seminar “Technical Method of Sports Intelligence Activities Ⅱ”, which is trying to build a new scheme for learning and having experiences of sport intelligence staff. The seminar proposes a model of top sport intelligence activities called “Tokyo J Project 2008 Beijing”. This model gives our students a good practical learning experience.

Key words: Sport Intelligence Activities, Technical Method, Education program

## 1. 背景と目的

仙台大学は2007年、日本の大学で初めて「スポーツ情報戦略」という新たな専門領域を持つスポーツ情報マスメディア学科（以下、本学科とする）を開設した。そしてその翌年より、スポーツ情報戦略コースにおける発展科目として「スポーツ情報戦略論演習」や「スポーツ情報戦略論実習」といった演習・実習系科目を開講し、学内外での実践的なスポーツ情報戦略教育が開始された。

本稿は、スポーツ情報戦略教育における「演習・実習」の在り方を検討することを目的とするものである。新たな教育分野の確立を指向す

る本学科の目下の使命は、基軸となるスポーツ情報戦略教育体系を作り上げていくことにある。その第一歩として展開されている現行カリキュラムに基づく演習及び実習は、その体系化に向けたゼロベースからの試みであり、換言すれば、仮説に基づき企画・実施されている教育活動である。よってこれから本学科に求められることは、この仮説を実行に移してその有効性を検証していくことにある。それはまた、次のステップへの改善のための基準づくりでもある。本研究は、スポーツ情報戦略活動の教育プログラム化のための基礎研究に位置づけられる。

本稿では、2009年度前期に実施された「ス

「スポーツ情報戦略論演習Ⅱ」を取り上げ、スポーツ情報戦略活動分類のどの領域を対象フィールドとして実施されたかを明らかにするとともに、本演習がどのようなスポーツ情報戦略活動モデルを用いて企画・実施されたかに言及する。最後に、本演習の可能性と課題について言及する。

## 2. スポーツ情報戦略活動の分類

勝田（2009）はスポーツ情報戦略活動を6つの「場」に分類し、さらにその「場」によって複数の機能を有することを指摘している（表1）。「場」は①国家政策支援活動、②競技団体統括組織活動、③競技団体活動、④支援組織活動、⑤教育活動、⑥研究活動の6つに分類される。①から④までは目的的にスポーツ情報戦略活動が展開される「場」を示しており、⑤及び⑥はそれらの「場」を教育・研究の対象フィールドとした副次的活動に位置づけられる。また、①から④までのスポーツ情報戦略活動は、(A)前線支援活動と(B)側面支援活動の2つの機能に大別される。

## 3. 本演習の位置づけとスポーツ情報戦略活動モデル

本演習は、国立スポーツ科学センター（以下、JISSとする）スポーツ情報研究部が実施する「東京Jプロジェクト」がそのスポーツ情報戦略活動モデルとして採用されている。よって本演習は、スポーツ情報戦略活動の分類における④支援組織活動の(B)側面支援活動に位置づけられる。

「東京Jプロジェクト」とは、オリンピック競技大会時におけるJOC日本代表選手団に対する情報後方支援体制である。本プロジェクトは、①JOC日本代表選手団（本部）の諸活動に関わる情報の収集・分析及び提供、②当該大会以降に向けた、日本の国際競技力向上方策を立案するために必要な情報の収集・分析、の2つの目的を持つ。本プロジェクトはこれらの目的を果たすために、国内に「情報後方支援本部」を開設し、そこを活動の拠点として、現地の情報戦略スタッフと連携を図りながら情報後方支援活動を実施する。東京Jプロジェクトのスポーツ情報戦略活動は、図1のモデルに示されるとおりである。

表1 スポーツ情報戦略活動の分類

	活動の「場」	機能	名称	母体
1	国家政策支援活動	マネジメント支援(側面)	情報戦略局構想	文科副大臣レポート
2	競技団体統括組織活動	マネジメント支援(側面)	情報戦略部会	JOC 選手強化本部
		戦略立案支援(前線)	情報戦略チーム	JOC 日本代表選手団
3	競技団体活動	マネジメント支援(側面)	テクニカル部門	JRFU 強化推進本部
		戦略立案支援(前面)	テクニカルチーム	ラグビー日本代表チーム
4	支援組織活動	戦略立案支援(側面)	東京Jプロジェクト	JISS 情報研究部
		戦略立案支援(前面)	マルチ・サポートチーム	JISS マルチ・サポート事業
5	教育活動	スポーツ指導者	公認指導者養成科目	日本体育協会
		大学教育	情報戦略コース	仙台大学/びわこ成蹊スポーツ大学
6	研究活動	研究会・研究グループ	情報戦略セミナー	有志
			情報戦略研究会構想	JISS & 仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所 (ISIM)
		研究所	情報戦略研究	仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所 (ISIM)

勝田（2009）

本演習は、東京Jプロジェクトの目的の一つである「情報後方支援」活動に重点を置きながら、図1に示したモデルが演習の活動形態に適用され、そこから学びを得ることが企図された。

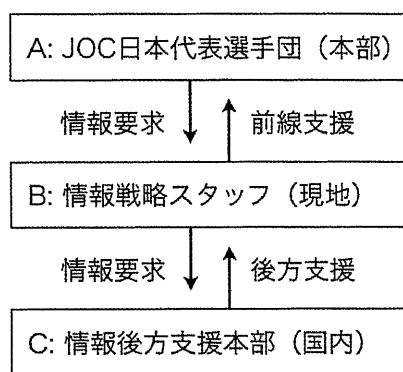


図1 東京Jプロジェクトのスポーツ情報戦略活動モデル

## 4. 本演習の内容

### 1) スポーツ情報戦略論演習Ⅱについて

「スポーツ情報戦略論演習Ⅱ」は、仙台大学スポーツ情報マスメディア学科の第3学年前期に、スポーツ情報戦略コースの発展科目として開講する、2単位・コース選択の授業である。2009年度前期は13名が履修した。

### 2) 授業の目標について

授業概要によれば、本演習の目標は「競技力向上における情報戦略活動について、その必要性や在り方、役割、求められるスキルについて体験を通して知り、併せて競技特性ごとの情報戦略スタッフの活動に必要な基礎スキルを身につける」ことであるとし、具体的には「①情報収集に関わるスキルを身につける（情報収集、分類・整理、検索など）、②素材情報を有用な情報に変える基礎スキルを身につける（加工、編集、分類、分析など）、③有用な情報を効果的にフィードバックする基礎スキルを身につける（提示、提供など）、④リスクマネジメントにおける情報の扱い方や管理について理解する」と規定されている。

### 3) 演習の観点

本演習では、競技力向上における情報戦略活動のモデルを適用した演習活動を企画・実施することで、受講者が上記の授業目標を達成することを目指している。受講者はそのモデルの中で、実際の当該情報戦略活動に従事する情報戦略スタッフに求められる要素を体験する。その体験に対して教員がコーチングすることで、授業目標を達成しようと試みるものである。

### 4) 演習の「場」

本演習は、2009年5月から6月に開催された宮城県高校総合体育大会（以下、高校総体とする）における宮城県利府高等学校への情報後方支援活動という位置づけで企画・実施された。演習対象の選定にあたっては、本学科関係教員の紹介を通じて、対象校の校長の了解を経て決定した。また高校総体での演習活動の実施については、宮城県高校体育連盟の理事長及び競技関係者の了解を得て実現した。

### 5) 演習の方法

#### (1) 演習の枠組み

本演習は、①事前活動、②期中活動、③事後活動の3つのフェーズからなる（表2）。①事前活動には、本演習の企画立案、演習の場を提供していただく先方との折衝及び調整、本演習に関わる事前学習、演習に参加する受講者へのオリエンテーション、及び受講者自身による事前ミーティングが含まれる。②期中活動では、高校総体の開催スケジュールを勘案して設定された3回の演習活動クールにおいて、受講者が分担して、現地での情報収集スタッフと情報後方支援スタッフの役割を演じて活動を実施した。③事後活動には、各活動クールの総括、次クールに向けた課題抽出とリプランニング、及び最終総括が含まれる。

#### (2) 情報戦略活動の目的と活動コンセプト

本演習では、今回の情報戦略活動演習の目的として、①利府高校の意思決定者に競技力向上に関わる情報を包括的な観点から提供することで、部活動における新たな競技力向上方策を検

表2 演習における3つのフェーズとその内容

フェーズ	内 容
1) 事前活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習の企画立案</li> <li>・先方との折衝及び調整</li> <li>・本演習に関わる事前学習</li> <li>・演習に参加する受講者へのオリエンテーション</li> <li>・受講者自身による事前ミーティング</li> </ul>
2) 期中活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地での情報収集スタッフと情報後方支援スタッフが連携した情報戦略活動（第1クール：5/22～26、第2クール：6/6～8、第3クール：6/26～28）</li> </ul>
3) 事後活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各活動クールの総括</li> <li>・次クールに向けた課題抽出とリプランニング</li> <li>・及び最終総括</li> </ul>

討するための情報戦略を行うこと、②利府高校が「一つのチーム（Team RIFU）」として戦うことの意味を考える機会を提供すること、③その過程を通じて、情報戦略活動の有効性を評価すること、の3つを想定した。

その目的を果たすために、受講者による事前ミーティングで活動コンセプトを設定した。第

1クール（5/22～26）は「Start!」、第2クール（6/6～8）は「LINK」、第3クール（6/26～28）は「Team RIFU」であった。すべての活動がこれらのコンセプトにひもづく形で一貫性を持ちながら情報戦略活動を展開した（表3）。

表3 各活動クールにおけるコンセプトとその説明

クール	期 間	コンセプト	説 明
第1クール	5/22～26	Start!	これから始まる総体に向けて、チームが一つになって戦うために、戦いが「始まった（Start）」ことを広く周知していく
第2クール	6/6～8	LINK	異なった会場で戦っていても、一つのチームとして「繋がっている（Link）」ことを意識させる
第3クール	6/26～28	Team RIFU	終盤に戦う選手に向けて、競技を超えたチーム（Team RIFU）としての支えがあることを伝えるとともに、次の戦いに向けて利府高校が一つになって本大会を終える

### （3）活動スキーム

本演習は、東京Jプロジェクトの情報後方支援活動のモデルを参考にして活動スキームを構築した（図2）。受講生は、①情報支援チームの一員として現地入りし、現場の観察や映像撮影、関係者へのインタビューなどを通じて情報収集活動を行った。②そこで得られた情報は、すべて情報後方支援本部に一元的に集約した。③集約された情報を加工して「Team RIFU 情報戦略ニュースレター」を作成した。④作成されたニュースレターは、翌朝には各会場の関係

者に配布できるように工夫した。⑤撮影した映像は、クール毎に「Team RIFU 情報戦略ビデオ」として編集され、DVDにして関係者に提供した（図3）。その他、必要に応じて、情報後方支援本部は、現地情報戦略スタッフを支援した。

### （4）活動実施体制

本演習は、受講者が活動シフトを組み、そこに担当教員が配置されて現場に出向く体制が構築された。現場での活動は主に週末にあたるため、授業時間を活動に振り替えて実施した。ま

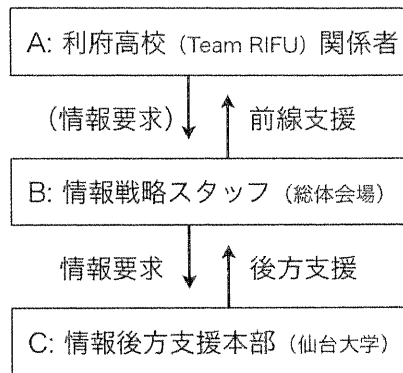


図2 演習におけるスポーツ情報戦略活動モデル

### 仙台大学学生による情報支援チーム演習の全体像

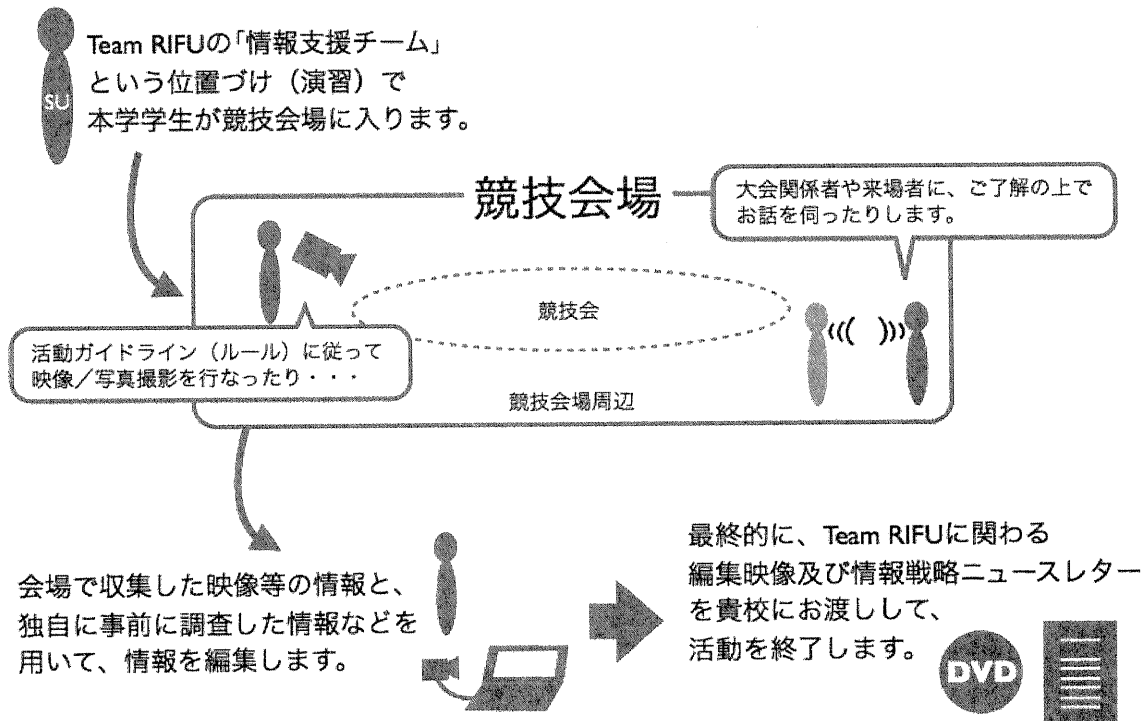


図3 演習でのスポーツ情報戦略活動の全体像 (活動の流れ)

た諸事情により週末の現場活動や大学での情報後方支援活動に参加できない受講者は、それ以外の総括映像の制作やレポート作成等の関係活動を割り当てて、その活動に従事することで前述のスキルを向上するとともに、それらの活動を評価対象とした。

#### 6) 演習の成果物 (アウトプット)

本演習において受講生は、①情報戦略ニュースレター(写真1)、②情報戦略ビデオ(写真2)、③活動レポート(写真3)、の3点を演習の成果物として提出した。①については、離れた競技会場で試合に臨む各競技種目間での、「Team RIFU」としてのビジョンや情報の共有を図る

ための媒体としての役割とともに、新たな観点から高校総体や部活動を考えるきっかけとなる、高校総体とは直接に関係のない情報を取って掲載するなどの取り組みがなされた。②については、クール毎の総括的な位置づけでの映像を制作し、Team RIFUとしての雰囲気醸成するための情報戦略活動を行った。③について

は、本演習をマネジメントする学生リーダーが中心となり、活動運営ミーティングを開催し、そこで明らかになった事柄を整理してレポートした。

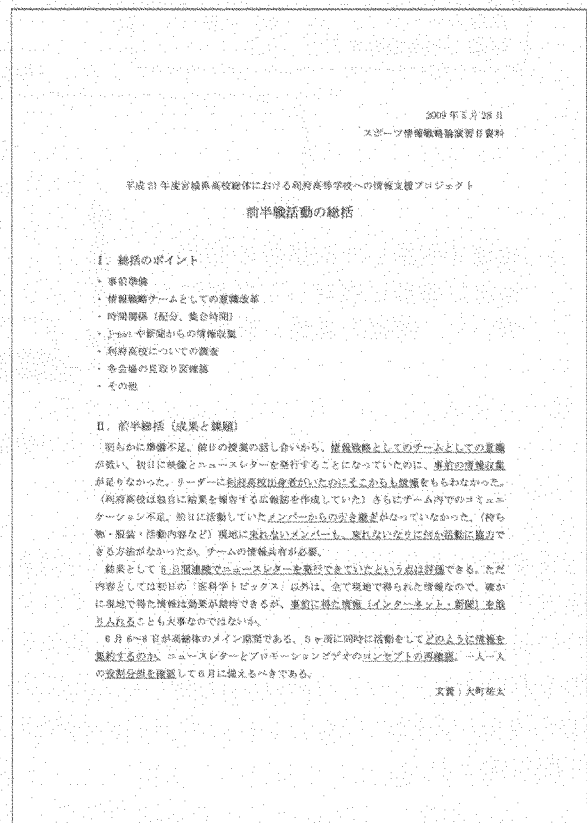
写真1 Team RIFU 情報戦略ニュースレター



写真2 Team RIFU 情報戦略ビデオ



写真3 活動レポート（一例）



## 5. 本演習の可能性と課題

### 1) 可能性

本演習に求められるものは、授業概要の目標に規定されている①情報収集力、②情報加工・分析力、③情報提供力、④リスクマネジメント力の向上であり、それらを実践的に活用可能な⑤応用力である。その観点から本演習を省みると、東京Jプロジェクトという後方情報支援活動のスキームには、当該能力の開発に関わる有効な局面が複数存在していると言える。

例えば、東京Jプロジェクトに見られる支援組織活動としてのスポーツ情報戦略活動は、競技会場等の現場での最適な情報戦略活動を支えるために、臨機応変かつダイナミックな対応が求められる。前日の情報戦略ニュースレターをその日の試合開始前に、各会場にいる関係者に最適なタイミングで配布するためには、その瞬間を支えるために、前線支援のスタッフと後方支援のスタッフが円滑な意思疎通を図っておく必要があるだけではなく、それを実現するための解決策をチームで検討して解決することが求められる。

本演習では、深夜に完成する前日の情報戦略ニュースレターを、翌朝にプリンターもファックスもない異なる競技会場3カ所で、同時に配布するためにはどのような解決策があるかを検討し、その解決策を洗い出して、実行にこぎつけた。制約条件に依存して「できないことはできない」と早々に諦めてしまうのではなく、合目的に思考するなかで、いかに制約条件の中で最善の対応解を導き出すかということが、実践的なスポーツ情報戦略演習の一つの特徴であると考えられる。

これは一つの事例に過ぎないが、スポーツ情報戦略活動の教育プログラムとして、宮城県高校総体で行われた利府高校への情報後方支援活動は、実際のオリンピック競技大会時における日本代表選手団への情報後方支援活動に求められる能力の発揮を求めながら、それ自体を学ぶ場として有効であることが、主観的に確認できた。

チームリーダーをした学部3年の大町祐太氏

は「校長先生をはじめとする教員の方々、高校生たちから『学校として一つのチームとなって試合をすることができた』とコメントをいただき、私たちにとって内容のある活動となった。今回の実習で私たちは、アスリートに対して行う情報戦略サポートの難しさを改めて実感した。そこから、スポーツ情報を扱う人間として、もう一度情報戦略という難しいテーマについて考える、良い機会を与えていただいた」とコメントしている。スポーツ情報戦略が、情報や映像をテクニカルに扱うものだけではなく、人と人との関わりの中でこそ成立するものであることを如実に表している。

### 2) 課題

一方で、本演習ではいくつかの課題を解決する必要がある。一つは学生主体の組織的な情報戦略活動体制をいかに構築するかということである。このことは「チームビルディング」や「チームマネジメント」といったキーワードで説明されるが、目的に対してチームの構成員が相互に貢献し合える良好な関係と最適な貢献度のバランスを見出すことは、チームを率いる指導者にとっての命題でもある。このことは、情報戦略活動を展開していく上でその成果に大きく影響を及ぼす要因でもあり、事前準備の段階での対策を講じる必要があると思われる。また運営面では、本学から宮城県内の各会場までの距離にバラツキがあり、また公共交通機関の整備されていない地域での試合などもあるため、会場までのアクセスとその経費について、学生間にバラツキが生まれてしまう。この点についても、継続可能な演習スキームとして確立する上で、その解決策を模索しなければならない。

## 6. 謝辞

最後ではございますが、本演習は、菊地茂樹校長兼会長をはじめとする、宮城県利府高校及び宮城県高等学校体育連盟の多大なご理解とご協力により、実際の競技活動が行われる宮城県高校総体の各会場を舞台に演習を実施することができました。ここに心より感謝申し上げます。

## 参考資料

1. 河合季信、阿部篤志ほか「トリノオリンピックにおけるJOCの情報戦略活動」スポーツコーチング研究 Vol.4(2005),No.2 pp.82-89
2. 勝田隆「国際競技力向上を目的とした『組織的情報戦略活動』に関する研究～『情報戦略』の変遷の記録化と整理～」スポーツ情報戦略論演習Ⅱ講義資料, 2009
3. パンフレット「宮城県高校総体における利府高等学校情報支援プロジェクト (Team RIFU) ～学科授業における実践的教育活動 (スポーツ情報戦略論実習Ⅱ)～」
4. 資料「利府高校との高校総体打ち合わせメモ」2009年5月19日
5. 資料「平成21年度高校総体における利府高等学校への情報支援活動演習における円滑な演習実施のための活動ガイドライン」2009年5月21日
6. 資料「平成21年度宮城県高校総体における利府高等学校への情報支援プロジェクト一前半戦活動の総括」2009年5月28日
7. 資料「スポーツ情報戦略論演習Ⅱにおける宮城県高校総体での利府高校情報支援活動トライアルの実施経緯について」2009年6月1日
8. ニュースレター「Team RIFU 情報戦略ニュースレター」Vol.1～11、競泳応援版、フェンシング優勝特別号